

市指定

所在地：大淵

そぞうまりあかんのりゅうぞう

塑造マリア観音立像

篠山市にキリスト教が入ったのは、元亀、天正の頃（1570～92）で、慶長年間（1596～1615）には大淵付近に、日本三大切支丹寺の一つと言われた天通寺をはじめ、大通庵（マリア像が所在する現長徳寺）などの教会が建てられ、キリスト教が大いに流行っていた。

当マリア像はその頃に制作されたものであるが、慶長18年（1613）のキリシタン禁制後は、カムフラージュされて「子安観音」「子育て観音」と称し、その後安産信仰の対象となった。

郷土のキリシタン史を物語る貴重な資料である。

